

防災かわら版

第15号 平成27年3月
発行 つくし野1・2丁目自治会自主防災隊



平成26年度防災部活動 一年を振り返って

防災部 松脇澄世

十 三年ぶりに自治会班長となり、その頃「災害時のペット問題」に関心をもって、いた私は自治会の専門部として防災部を希望し、所属することになりました。

防災部活動について何もわからないところからのスタートでしたが、毎月の自主防災隊定例会への出席、夏の町田市防災講習会、町田市防災訓練への参加、自治会の春と秋の防災訓練、その他自治会防災部としての活動を行っていくうちに、少しずつですが、防災に対する知識も得てきて、一年近く経った今、やっと防災活動の大切さがわかってきたような気がします。

特に、初めの頃、年一回でもいいのではと思っていた「防災訓練」は、毎回、班会議を行うことによって、一人一人の「防災」意識を確認し、隣近所のコミュニケーションを深め、それぞれの役割などを考える良い機会の場合として必要で、かつ、大切な自治会の防災活動であると実感しました。

秋 にはつくし野自治会連合の「防災訓練」に参加することができ、その準備会議のなかでは他の自治会の防災活動状況などを聞くことができたことも貴重な経験でした。

「自主防災隊」メンバーの方々が防災訓練をはじめ地域の防災活動に熱意をもって活躍されているということが一年間、一緒に活動させていただいて、よくわかりました。

防災部、ハードスケジュールな時もありましたが、部員同士、助け合いながら一年がんばりました。

27年度は、防災部での活動経験を生かして、副班長(前年の班長が副班長)として「防災訓練」に参加し、班内の防災意識とコミュニケーション度がさらにアップするようお手伝いできたらと思っています。





町田市自主防災組織リーダー講習会 (2015. 2. 28)

昨日の講習会なかなか盛況で定員 40 名全員参加でした。参加された各自治会の自主防災体制お聞きして勉強になったりアドバイス出来たりで有意義でした。有難うございました。 KH 防災隊員

生き延びる備え、「避難所生活」はどうなる？

2月28日(日)、「2014年度第3回町田市自主防災組織リーダー講習会」が開催され、つくし野1~4丁目自治会から防災担当者5名の参加がありました。

講習会テーマは「災害時における防災リーダーの実働訓練」。プログラムは「町田市における多摩直下地震の被害像と避難生活への備え」、首都大学東京の市古太郎先生から「断水や停電でトイレが使えなくなったときの備えが重要になる」との指摘がありました。

グループワークでは、ワーク1では「避難施設配置計画」、ワーク2では「模擬避難施設運営会議」について白熱した議論が行われました。

「避難生活マニュアル(案)」が検討される中、たいへん参考になりました。 TH 防災隊員

☆災害時要援護者への支援

高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児、外国人などは、災害時に状況の把握や避難行動等を的確かつ迅速に行うことが非常に困難です。このような方がたを「災害時要援護者」と呼び、災害時には隣近所など地域の皆さんの支援が必要不可欠なものとなっています。

①災害時要援護者の把握

日頃から声掛けや介助を積極的に働きかけて交流を図るとともに、要援護者本人からの同意を得てリスト(名簿)を作り、自分たちの地域の災害時要援護者を把握します。

②支援計画の作成

把握した要援護者一人ひとりに対して手を差し伸べられるよう、個別の支援計画を作成します。(安否確認、避難ルート、介助の注意事項など)

③災害時の対応

支援者は、自分自身や家族の安全確保、安否確認を行うとともに、要援護者についても安否確認を行います。自宅の倒壊等、その場にいることが危険であると判断した時には、要援護者本人及びその家族に避難に際して同居者による介助ができない場合には、支援者が避難施設等へ誘導します。避難施設等での生活をする場合には、居住スペースや物資の配給について可能な限り配慮します。

④防災訓練の実施

可能な限り要援護者本人に防災訓練へ参加をしてもらい、作成した災害時における支援計画の検証を行います。

以上「自主防災組織のてびき」2014年7月作成町田市より抜粋